2022 年前期・進捗報告（実行団体）

● 提　出　日　：　２０２２年１０月２０日
● 事　業　名　：　自然と生きる若者集団プロジェクト
● 資金分配団体　：　一般財団法人中部圏地域創造ファンド
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人かしもむら

① 実績値＝原則、2022 年 4 月～9 月末の実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況 （実施した活動内容も５Ｗ１Ｈや、参加人数等もわかるように書いてください＝別紙一覧でも可）	進捗状況 ＊
１．協議体として機能するため、課題実行団体が連携して事業を実施する。	①協議体構成団体の定期例会議の実施回数 ②協議体構成団体の定期例会議の参加人数 ③協議体構成団体の連携事業数 "	①協議体構成団体で 6 回/年間 ②協議体構成団体で 60 人/年間 ③6 件	2023 年 3 月	全体の定例会議については、コロナ感染防止のため、定例的にオンライン形式で実施し、それぞれ参加人数は月平均 6 名であった。ただ今年度は、加子母木匠塾の学生代表と aichikara の事務局員が加子母及び馬瀬地域に多く滞在してくれていたため円滑に打合せができた。 そのような環境が整っていたため、6 月 25 日～26 日に実施した木匠塾の学生を対象にしたコミュニケーションを高めるセミナーを aichikara メンバーが実施し、8 月 6 日には馬瀬地域で協議体メンバーや地域住民 24 名が参加してラジコン草刈機等を用いた共同作業も実施することもできた。その他、学生の地域行事への参加、山村スタディーツアー、用水路の補修作業、農家での収穫支援、観光施設の改修や環境整備など様々な活動を実施し、学生たちの取り組む姿勢が、地域住民から高評価につながった。	2 計画どおり進んでいる
２．協議体構成団体の事業参加者がスキルアップし、地域の持続的発展に取り組む。	①協議体構成団体の研修・視察の実施回数 ②協議体構成団体の研修・視察の参加人数	①協議体構成団体で 2 回/年間 ②協議体構成団体で 100 人/年間 ② 地域住民との合同検討会	2023 年 3 月	教育関係者や自治体、異業種の民間事業者から参画する「旅と学びの協議会」に加入し、オンラインでのセミナーや 7 月 9 日～10 日に埼玉県飯能市でサミットにも 1 名が参加し、学びを深めるプログラムづくりを学んだ。その他、昨年度から継続してオンラインショップ「カシモール」の“地元ライター”の育成を通じた地域特産品の販売促進にも取り組んだ。	3 計画より遅れている

	③地域との活動の種類、規模と実績 ④地域との活動に参加した人数 "	3 回/年間 ④100 人/年間"		学生たちの地域との活動については、感染防止のため現地への往来や直接的な接触は制限したため、大規模な交流活動はできなかったが、木匠塾と aichikara の中心的メンバーが長期的に滞在しながら地域住民との交流を深めてくれた。また、今年度加子母地域内に発足した加子母観光協会のビジョンづくりなどにも参画し、若者たちから見た地域の魅力や発信の仕方について気づきを与えてくれた。	
3.協議体の組織基盤強化に取り組む	①協議体の組織体制 ②地域及び関係者の協議体に対する評価	①協議体の組織体制、事業内容、資金計画等が明確にされる ②協議体の活動が地域・関係者で評価される	2023 年 3 月	活動の中心となる若者たちのほとんどが大学生であるため、資金的な基盤強化はきびしいものがあるが、行政や OB 関係者、大学への直接的な働きかけ、相談を進めながら活動資金の確保などについて検討を行っている。加子母木匠塾の活動に対しては、外部からも高く評価されており、7 月 16 日には東大連続レクチャー「つくるとは、」にも取り上げられ、また全国の地方新聞 46 紙と共同通信社が、地域に活気を与え魅力を高める活動で成果を上げた団体を表彰する「地域再生大賞」の候補として推薦を受け、現在審査が進められているところである。 また継続して農村 RMO の形成についても検討を進めている。中山間地域の「農地の保全」、「地域資源の活用」、「生活支援」を柱とする中で、若者たちとの協働により課題解決に取り組んでいく地域運営組織の必要性は高まっている。	2 計画どおり進んでいる
４．事業の制度化を図り、他地域での事業展開に取り組む	①事業成果を明確にした報告書。 ②事業制度確立に向けた関係機関との協議回数	①報告書の発行 ②2 回以上	2023 年 3 月	事業の制度化に向け、地元自治体や大学関係者とも検討を進めている。公共交通機関での往来が困難であるため、学生たちにとってはハードルが高くなってしまうことが課題となるが、国内版ワーホリ的な滞在を通じた活動や、森林環境譲与税を財源とした間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発にマッチする活動として提案しながら協議を進めている。	2 計画どおり進んでいる

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.（任意）活動に関する報告
課題実行団体である NPO 馬瀬川プロデュース、一般社団法人 aichikara、学生団体加子母木匠塾との連携を強化し、過疎地域が抱える様々な課題解決と、若者たちが学びや体験を通じて効果的に課題解決が図れるよう調整を行った。コロナ禍の行動制限がかかっている状況下であったため、地域住民から学生たちの活動に対して理解が得られるよう、各行政機関や地域団体との調整を行いプログラムづくりに取り組んだ。 特に、馬瀬地域での展開については、下呂市馬瀬振興事務所や区長会の理解のもと、南飛騨馬瀬川観光協会、認定農業者の方々など多くの協力を得ながら、学生たちのフィールドワークを実施することができた。過疎地域が抱える課題を若者たちの力によって解決していけることには限界があるが、山村スタディーツアーや農業体験などを通じてに得られた地域住民との関係性は、代えがたい貴重な体験であり、今後も新しい要素を取り入れながらプログラムのアップデートを行っていきたい。

③ 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況
☐自団体のウェブサイトで表示している　☐広報制作物に表示している ☑報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2. 広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 加子母木匠塾の活動（岐阜新聞） 2.広報制作物等 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） 東大連続レクチャー「つくるとは、」の開催

添付資料　活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、3～4 枚程度）

7/16「つくるとは、」建築＋教育

8/8「加子母木匠塾」開校式

8/15「加子母木匠塾」林業ツアー

9/8 木匠塾と加子母観光協会意見交換会